慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	解題：特集：大正期再考
Sub Title	Special issue: A re-examination of the Taisho Period (1912-1926)
Author	『近代日本研究』編集委員会("Kindai Nihon kenkyu" henshu iinkai)
Publisher	慶應義塾福沢研究センター
Publication year	2012
Jtitle	近代日本研究 (Bulletin of modern Japanese studies). Vol.29, (2012.) ,p.1- 2
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集：大正期再考
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10005325-20120000-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

解題　特集　大正期再考

二〇一二年は、元号が明治から大正から改元された一九一二年から百年という画期的年にあたっていた。しかし、それを認識していた国民は少なく、国家・学術レベルでも、明治百年のときとは比較にならないほど、扱いは小さかった。一九六八年には、天皇皇后を招いた日本政府主催の式典が開かれ、各種記念行事が大々的に行われ、膨大な研究資料である『明治百年史叢書』が刊行されることになったが、大正百年に際しては、学術研究の世界では一定の再検証の動きが見られたものの、その規模は明治百年とは比較にならない。

たしかに、大正という時代はつかみにくい。第一次世界大戦とワシントン体制、関東大震災、共産党結成と治安維持法制定など、特徴的な出来事はいくつもあるが、国家建設という壮大なプロジェクトを推進した明治という時代に比すると、枠組みを規定するのは困難である。かつてこの時代の政治を彩った「大正デモクラシー」という用語の使用の是非自体が今日問われているし、政党政治も社会主義自体も明治以来のものであった。

そのつかみにくい時代を、つかみにくいからこそ、捉え直し、再考する試みをしてみたい。本誌では大正百

年という記念すべき年にあたり、こうした趣旨から本特集を組んだ。論考を寄せていただいたのは、いずれも、大正期の歴史研究をリードしてきたベテランから若手にいたるまでの気鋭の研究者たちである。これらの成果により、ともすれば看過されがちな「大正」という時代の意義を学術的に再考し、さらに、これを再構成する契機を学界に提起したいと考えている。

最後に、本特集の推進にあたり、貴重な論考を寄せて頂いた各研究者に、心より御礼申し上げる次第である。

『近代日本研究』編集委員会